

【背景・目的】 植物インベントリに得られた有用植物の植生データについて地理情報システムを用いた空間解析を行うことにより、産業化に必要な適地評価を行う。

【方法】 共同研究者らにより採取された野生植物の採取地点 536 のうち 97 採取点でウバユリを採取することができた。本研究では、97 採取点に対し、ウバユリ植生の環境要因を調査するため、「標高」「降水量」「傾斜」「傾斜方位」「水辺からの距離」「植生分布境界線からの距離」について QuantumGIS を用いて、統計解析した。

【結果】 図 1 は QGIS を用いた採取点分布 3D マッピングの一例を示したものである。なお、3D プリンターを用いることによって、視覚的な地形図の印刷にも成功した。また、採取点の属性平均値から以下のことが分かった。「降水量」は 2720mm と高知県の平均降水量 2550mm より多い値となった。「傾斜方位」からは、約 2/3 の点が北側の斜面にあるという結果が得られた。「水辺からの距離」は 84m、「植生分布境界線からの距離」は 178m という結果が得られた。

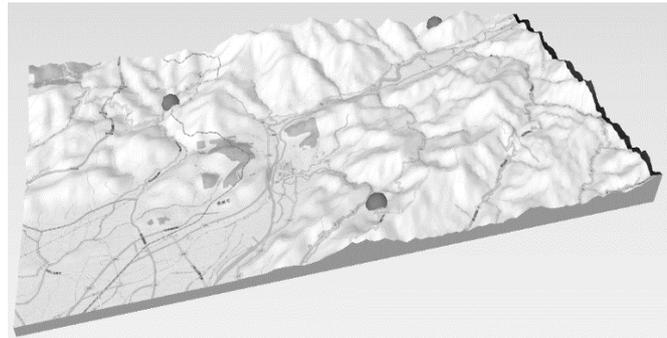


図 1. 香美市周辺の 3D マップとウバユリの採取地